令和6年度第1回恵那市子ども･子育て会議 会議録

日　時：令和６年８月８日（木）
午後７時～午後８時 30 分
場　所：恵那市役所 会議棟大会議室

１．開会
２．あいさつ
３．報告
（１）恵那市第２期子ども・子育て支援事業計画の進行管理について
（２）こども・若者に関するアンケート調査結果報告について
（３）ＡＬＬえなネウボラ会議の報告について
４．議題
恵那市こども計画骨子案について
５．その他
子育て支援事業について
６．閉会

■出席委員
坪井弥榮子、石田しず江、杉山淳、松井満数、紀岡伸征、林千秋、安田和枝、
立尾清二、堀尾憲慈、横井喜彦、渡邉みちる、可児由紀子、藤野貴子
■欠席委員
西尾綾介、駒宮博男、蜂谷明子、中川春花、佐々潤子、片山三咲、市川伸美

１．開会

■事務局：これより令和６年度第１回恵那市子ども・子育て会議を開催します。

本会議の成立は、恵那市子ども・子育て会議条例の規定により過半数の出席が必要となっております。20 名中出席者は 13 名であり過半数以上の出席がありますので、本会議が成立していることを報告いたします。

本日も恵那市子ども計画の策定委託をしております株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所からもお越しいただいておりますのでよろしくお願いいたします。

では、今回より５名の新しい委員が委嘱されております。順番に自己紹介をお願いしたいと思います。　〔　自己紹介　〕

■事務局：本会議は「恵那市附属機関等の会議の公開に関する要綱」に基づき、原則公開とし、会議録につきましてもホームページで公表いたします。

それでは委員長よりごあいさつをお願いいたします。

２．あいさつ

■委員長：皆さんこんばんは。１日お仕事でお疲れのところ、また暑い中にご出席いただきましてありがとうございます。

今年の夏は、連日の猛暑で熱中症予防対策のために小学校のプールがあまり使えないそうで、子どもたちは可哀想でした。プールの水を少なくして、学童保育で使えるようになるといいと思います。

宮崎県で大きな地震があって、さきほども緊急情報が入ってきていましたけれども、これが南海トラフにならなければいいと思います。岐阜県の被害は割と少ないとは思いますが、愛知県、それから中津川市もその中に入っているので、来なければいいのですが、もし来た場合には岐阜県は受け入れ体制を考えなければいけないと思います。

恵那市では、本年度から子育てパッケージのひとつである「産後家庭へのベビー用品宅配事業」が見守り支援員、生協さんにお願いをして始まっています。７月 29 日に出発式があって、翌日の中日新聞に掲載されていました。産後にどうしても買い物に行けない人たちが多い中、用品を宅配し、そしてそこでいろいろな相談を受けるという事業が始まったわけです。皆さんと一緒に考えながら、これからもパッケージをたくさん増やしていけると良いなと思います。

この子育て会議でいただいたさまざまなご意見は、それらをまとめて市政に随分反映されています。例えば高校３年生までの医療費の無料化や、明智へ行く子の分だけではく、明智方面から恵那高校や中津高校へ来る子の明知鉄道の運賃の支援などがこの会議で皆さんのご意見をいただきながら決まったことです。担当課から行政にあげてもらって、それが市政にすぐに反映されたということもありました。是非、皆さんから忌憚のないご意見をいただきながら、この重要な会議を進めていきたいと思っております。最後までよろしくお願いします。

■事務局：ではこれより委員長の進行により会議を進めていただきますので、よろしくお願いします。

３．報告

（１）恵那市第２期子ども・子育て支援事業計画の進行管理について

■議長（委員長）：それでは議事に入ります。報告（１）恵那市第２期子ども・子育て支援事業計画の進行管理について、事務局から説明をお願いします。

〔　事務局から資料に基づき説明　〕

■議長（委員長）：ありがとうございました。ただいま説明がありましたが、この内容について何かご意見ありませんでしょうか。

■委員：２ページ No.10「一時預かり事業」で、「②その他計画」の未就園では平成 31 年は計画に対して実績が近い数字なのに対して、それ以降は結構差があるのにはどのような理由がありますか。

■議長（委員長）：未就園の平成 31 年は計画 1277 に対して実績 1299 と数字が出ていますが、それ以降の利用、実績が約半分ぐらいになっています。どうなっていますか。

■事務局：幼児教育課です。未就園児の一時預かりの減少ですが、まずコロナ禍で一時期利用が激減したものがまだ回復していないことがあり、これがいちばん大きな理由かと考えております。ただ令和４年度から比べますと、現状ではコロナも緩和されてまいりましたので徐々には増えてきております。しかし現状、未就園児は減少傾向にあり、子ども園の利用定員が順番に上がってきて子どもも減少していることもあり、希望される方はほとんどが園に入園をしており、残りの方は育児休業の延長等があり家で保育をされている方が非常に多くなっています。一時預かりを利用される方も限定されてきているということと、コロナ禍により、利用者が少なくなってきたことが理由であるかと思っています。

■委員：コロナ禍で減少してきてはいるけれど計画はそのまま、あまり関係ないような数字ですけれど、例えば市議会で意見が出たりするようなことはないのでしょうか。

■事務局：今後、検討して計画自体を見直しすることを考えたいと思います。

■議長（委員長）：　５年間の計画でずっと来ているので途中で直さないということもあるのかもしれませんが、一度検討してみてください。

（２）こども・若者に関するアンケート調査結果報告について

■議長（委員長）：続いて、こども・若者に関するアンケート調査結果報告について、事務局から説明をお願いします。

〔　事務局から資料に基づき説明　〕

■議長（委員長）：大量のアンケートでしたが、わかりやすくまとめていただいてありがとうございました。ただいまの説明に対して、ご意見やご質問はありませんか。

■委員：この結果について大変興味深く見させていただきました。調査の回収率が非常に高く、普通郵送などでは半分ぐらいのイメージがありますが、高い回収率になった要因は何かあるのですか。

■事務局：中学生については校長会を通してお願いをしました。高校生については、市内の３校、恵那高校と恵那農高校、恵那南高校に伺いまして、学校で使用しているタブレットやスマホで学校の時間内に回答してもらうようお願いしました。

■議長（委員長）：普通のアンケートではこれだけの回収率はなかなかなく、６割ぐらい集まればもう上等といったところですが、大変高い回答率でした。

■委員：学校の時間内でやられたのが大きかったということ、ありがとうございました。

■委員：これだけの細かいアンケートをありがとうございます。傾向が見えてくるとこれから先、恵那市として何をしていかなければいけないかが見えてくると思います。

支援が必要な子どもたちが中学生で 1.1 パーセント、高校２年生で 0.6 パーセントいますが、そのような子たちにアクセスはできるのですか。

■事務局：本人を特定しないという趣旨で回答いただいているので、現状そこまではできていません。

■委員：心配ですね。

■議長（委員長）：これだけあるということは何らかの支援をしていかないといけないと思いますけれど、プライベートのことなどがあります。

■事務局：ご指摘の通りヤングケアラーなどの心配もありまして、県の調査もあったりと、意識は高まっております。学校でも月１回のアンケートやチャンスを捉えた相談、そういったものを密にしながら、こちらがヤングケアラーではないかと思われる子に対しては推測しながら面談をしながら対応しておりますので、それらも充実させていきたいと思っています。

■委員：中２で３人、高２で２人、この５人については特定できているのですか。

■事務局：できておりません。

■委員：では、どこの高校で何人、どこの中学で何人というのはわかりますか。

■事務局：はい。

■委員：その学校の関係者と、こういうアンケートの結果が出ていて、こういうヘルプが来ている人が何人いるという話はされていますか。

■事務局：今はしておりませんが、今後は共有し対応も検討していきます。

■事務局：数としてはむしろもう少しいるのではないか、潜在的なことも含めて、これだけではないと思いながらやっております。特定はできていませんが、そういった心配をしながら対応していくことは十分にやっていかなければならないと思っています。

■委員：学校とはこの問題を共有していますか。

■事務局：このアンケートの結果については高校へ説明に伺っています。ただ特定はできないので、情報提供をさせてもらったという状況です。

（３）ＡＬＬえなネウボラ会議の報告について

■議長（委員長）：続いて、ＡＬＬえなネウボラ会議の報告について、事務局よりお願いします。

〔　事務局から資料に基づき説明　〕

■議長（委員長）：ただいまの説明に対して、ご意見やご質問はありませんか。

■委員：「就学前サービス部会」の「預かり（子ども園）」には、かなり具体的な要望が書かれています。こども園の幼児コースの降園の時間だとか、おやつのこと、白いご飯のこと、かなり具体的な要望が、他と比較してもレベルが違う細かさだと思いながら読ませていただきました。切実なのだろうなと思います。

保育士のところは私たちにも関係しますが、学生も少なくなっており、保育の仕事を目指す若者が減っていることは深刻なことで、考えなければいけないと思っています。

それから「保育士」に幼児の定員を減らして欲しいとありますが、77 年ぶりに国の法律も改正されましたが、ここに書いてあるような４：１になるとかなり１歳児も充実した、安心できる

保育ができるのではないでしょうか。１歳児がかなり課題だと思っています。
■議長（委員長）：全体的に見ても、この「子ども・子育て・教育にかかる支援の充実」は身に染みて意見を出しているのかと感じます。
　保育士が少ないという話がありましたが、私の友人はそれこそ 70 歳を過ぎていますが２時から４時まで、２時から５時まででもいいから来てもらえないですかと言われて行っています。それだけでも保育士さんたちがホッとするということを言われて、子どもたちも高齢者との触れ合いを毎日感じているということでした。今、高齢者の就職率も少ないですので、そういったところでも活用していただけると良いと思っています。
■委員：６ページ④「子ども・若者の将来を支える社会づくり」について、「恵那の企業や体験」に「恵那市の企業紹介」とあります。私も恵那市で生まれたのですが知らないことは多く、例えば恵那市にどのような企業があって、何を作っていて、全国的にもこんなに素晴らしい、世界的にも素晴らしいということを子どもたちに伝えてほしいと思っています。ただ、それを恵那市に限定するのではなく、恵那と中津川は兄弟みたいなものなので、中津川にもこういう企業がある、こんなもの作りをやっている、といったことも紹介していただいていいのではないかと思います。恵那市から中津川市に通勤している人、中津川市から恵那市に通勤している人も多いと思いますし、恵那市限定で考えなくてもいいのではと思います。元々、中津も恵那も恵那郡だったので、恵南も恵北も含めて恵那郡だと考えていただきたいです。中津川に勤めれば恵那に住めるのですし、例えば三菱行けば恵那に住めるのです。そういう議員さんもいますけれど、いろいろな形で中津川とは連携ができると思うので、限定するのではなくもう少し視野を広げていただいても良いかと思います。
■議長（委員長）：恵那市には大学がないから、という意見もよく聞きます。今のご意見のように、恵那と中津川は昔の旧恵那郡と考えると大学もあるし、もう少し広い視野で考えることも大事であると、今のご意見を聞いていて思いました。
■委員：⑥「こどもまんなか社会にむけた環境整備について」の居場所について、学校以外の居場所は非常に大事だと思っています。今回この会議に臨むにあたって、社会福祉協議会の小学校１年生、保育園・こども園の子どもを持つ職員にも聞いてみました。恵南の在住でしたので南中ができた時に、山岡の周辺に中学生がいられる居場所がない、という意見がありました。スクールバスもあるでしょうけれども、親の迎えを待つ間に中学生が集える場所があると良いのではないかという意見を聞きましたので、いい機会ですのでお伝えさせていただきます。
■議長（委員長）：全員がバスで通うわけではないので、どこでもいいですけれど居場所というのは大事だなと思います。
■委員：青少年ではないですが、私は長島町の三学委員会にも所属しております。先程の企業紹介の件ですが、長島町でも毎年夏休みに小学生や保護者、大人を対象に、市内の企業見学を行っています。実は昨日もパロマさんの企業見学に、子どもを連れてバスで行ってきましたが、社員さんと一緒の社食でお弁当を食べさせていただいたり、パロマさんからは子どもが来る工場見学は珍しいので、今後もこういう活動を続けていけるといいというようなお話がありました。ただなかなか参加者が少なく、学校でもチラシを配布していただいているのですけれど、恵那にはこんなに良い企業があることを、もっと子どもたちに見せて伝えたいと思っています。去年は明知鉄道と明知セラミックスで、さまざまな恵那の企業を毎年子どもたちに紹介しています。これは

５年以上続けている活動ですが、学校からも「行っておいで」と言ってもらえると、もっと子どもさんたちが参加してくれるのではないかと思います。

■委員：ＰＴＡ総会などでも話が出ますけれど今は子どもが少なくて、恵那市の中でも学校の規模にかなり差があります。中学校にしても小学校にしてもそうなのですけれど、私は恵那市笠置町出身ですが当時私が小学生の頃と比べると児童数は半分以下です。北中地区の中学校は今まとまってはいるのですが、そちらも数が減っています。小学校単体もかなり数が減っているので、少ない人数の中で貴重な体験をさせてあげられるよう、いろいろな行事を作っていますが、今度は親御さんの負担などを考えると悩ましいところではあります。特に北中地区ですと自然が溢れており、笠置山ではカヌーの体験もできますし、地元ではできない、地元でしかできない貴重な体験に力を入れてやっています。

■議長（委員長）：地元を大事に、地元を知ってもらうこととか、委員が言われたような恵那市の企業を回って企業の良さを知ってもらうとか、それぞれの学校でそれぞれにやっておられるとは思います。青少年の育成の新聞などに出していただいて、恵那市の青少年育成協議会などに知ってもらい、一緒にやっていけるところがあるといいです。

■委員：検討させていただきたいです。今年度から青少年の広報誌を出すのですが、１年間の企画として、こども食堂も含めて子どもの居場所について提供していきます。青少年の広報誌は小中学校の全児童生徒に配ります。７月号にはこども食堂が出ていたと思いますが、そういう形で子育て支援の部分にも突っ込んでいこうと今年度は計画しています。

４．議題

恵那市こども計画骨子案について

■議長（委員長）：それでは議題に入ります。恵那市こども計画骨子案について、事務局から説明をお願いします。

〔　事務局から資料に基づき説明　〕

■議長（委員長）：ただいまの説明について、何かご意見はありませんか。まだ初めだけで、後ろはこれから会議を追うごとに入っていくということで、まず重点的なことだけを説明していただきました。

骨子案 23 ページの基本理念について、タイトルとサブタイトルとして案が３つ出されております。これ以外でも結構ですし、現在のままで良いなど、皆さんのご意見をいただきたいと思います。

■委員：どれでもいいというと叱られますが大体似たような部分ですので、私としては恵那の未来を皆で築くということで案３が良いと思います。

■委員：私も案３だと思いました。子どもたちがのびのびと輝ける、大人たちもまっすぐ向き合うということで良いと思いました。

■委員：私も同じく案３です。サブタイトルのこども若者が持つ思いという部分や恵那の未来をみんなで築くということ、全ての年齢層、全ての市民が参加、思いを繋ぐということで良いと思いました。

■委員：同じというと考えていないようですが、今の子どもたちを考えることで将来に繋がっていくというところが主案になっているのはすごく良いと思いますので私も案３です。

■委員：私は違う思いがありまして、今いちばん恵那市が考えなければいけないことは、子どもが少ないということだと思います。いい案があったとしても、これだけの子どもの減少の状況で５年、10 年経った時どうか。今、恵那で生まれている子どもが本当に少ないので子どもを増やしていかないといけない、ということで私は案１です。えなっ宝を地域みんなで育てるまち、という意味で、まず 20 代、30 代の女性が増えないことには、そういうご家庭が増えないことには子どもが増えない。子どもが増えないとどのようないい案があったとしても、少ない子どものために動かす動くよりも、子どもを増やすことを考える、地域みんなでまず子どもを増やしてみんなで育てていくというような考え方がいいと思っています。少し話がずれるかもしれませんけれど、この会議についても、例えば移住や定住とか、そういう人たちも含めた、とにかく子どもを産む環境のある方たちを増やす恵那市を作っていかないことには、子どもを守ることばかり考えても子どもが増えないと、という私は思いがありますので、その意味ではこの中だったら案１かなと感じています。

■委員：私も案１がいいなと思えてきました。地域みんなで育てることは大事にしたいところですし、前回の基本理念にある部分もそのまま継承していったらどうかというような思いでおります。

■委員：２つの意見が出て、はじめは案３が良いなと思ったのですけれど、安井委員のお話聞いて、子どもが増えないことには、と思ったのでどちらかを今考えているところです。

■委員：私の中では案３のサブタイトルのこども若者が持つ思いまっすぐ向き合いというところを見た時に、大人だけがこの計画のタイトルを気にするのではなくて、子ども若者という言葉が入っていることで、子どもたち自身が自分たちに向き合ってくれようとしているという思いがこの理念の中にあるのではないかと思えるような気がして、このタイトルがとてもいいなと思って見ていました。

■委員：本日会議を聞きながら大事なことたくさんあるなと思いました。先ほど高齢の方が保育の現場に戻っているような話がありましたが、そういった方々も含めて、多世代、いろいろな世代の方々が子ども達を育てる、関わることはすごく大事なことなのかと最近思っているところなので、「地域を」「みんなで」というところがすごく大事かと思います。そういった話に関連して、地域の中で落ち着ける、ほっとできる、居心地が良いというところが課題としてもあったので、地域全体の中で子どもたちのことを考える、繋がれるということはかなり大事なキーワードではないかなと思っていますので、案１です。

■委員：こんなこと言うと叱られるかもしれないですが、「えなっ宝」はどうしても使わないといけないですか。恵那以外の人にこれを見せると、どうして宝で「こ」なのか、と言う人もいます。他所の人に見てもらってどうというわけではないのですが、もしこれにこだわって継承していくということであれば「えなっ宝」がまず初めに来るものがいいと思って、私も案１か案３がいいと思います。

先ほど委員も言われたように、地域の繋がりが今は本当に欠けていると思います。私は恵那に小学２年生までおりましたが、近所のおじさんおばさんは親よりも怖いというか、何か悪さをしていたら叱られるのはよそのおじさん、おばさんだったのです。ある程度大きくなってからは中津川に住んでいたのですけれど、近所のおじさんおばさんが“あそこの息子はいつまでも結婚しないが何やっているのだ”と。そういうことを言うと今はいろいろな形で叱られるのですけれど、

結局要は何が大切かというと、よその子を気にしてくれる大人がたくさんいました。恵那は比較的、そういう意味ではまだその繋がりが残っている地域だと思うので、今はその繋がりを大切にしていこうという思いをオープンにしていかないと、なかなかこの恵那の良さは残っていかないのかなと思います。私は町内会長をやっており、それぞれの地域の繋がりはできるかもしれないが、広い範囲での繋がりがあまりないのです。恵那は比較的コンパクトなので、繋がりがもっと強くなれると思っていて、私は案１がいいかと思います。

■委員：個人的には、基本理念のタイトルについてうまい言い回しを考えるよりも具体的に何をするのかが大事ではないかと思います。先ほどあったアンケートのヤングケアラーのことや、ひとり親で困窮しているような家庭の方たちが、うまい言い回しをしているけれど内容は何だろうと受け取られてしまったら、こういった計画は台無しになってしまうと思うので、それを一言で表せるのはどれがいいか、自分では結論が出ないので申し訳ありません。

全然別件ですが、先ほど委員が言われた、恵那市内にどのような企業があるか、何を作っているかなどに関して、商工会議所、経済団体として、今年度は事情により開催をしていないですが、例年産業博覧会をやっています。当初はＢｔｏＢといって、企業が企業に向けてこんなものを作っているので取引しませんか、ということだったのですが、主催する青年部が少し方向性を変えて、数年前から恵那市内にいる特に子どもや中学生たちに向けて、恵那ではこんなものを作っていてこういう産業があるということに方向転換しています。福祉と経済の関係は近いようであまり接点がないので、来年度以降産業博覧会がもしあれば、何かタイアップをして、そういったところで一緒になっていくと良いと思います。経済界として、産業博覧会やジュニアエコノミーカレッジといった事業をやっているのですが、最終的に子どもさんがいない、人口が減ると企業は働き手がいなくて困る、悪循環、負のスパイラルになっている状況の中で、なかなかすぐに結論は出ませんが、そういったことをきっかけにするような事業もやっていますのでよろしくお願いします。

■委員：最初は案３がいいかと思っていたのですが、いろいろな今の状況や、私の田舎でもコロナがあけてからお祭りなども中止にしようという意見が出て、本当に地域のつながりが薄れているので、案１がいいなと思い始めました。

■議長（委員長）：現在、案１と案３が５人ずつになりました。案を合体して、地域のつながりも入れて欲しいし、子ども若者の持つ思いも入れてもらいたいし、というように少し文面が変わってくるのもまた良いかと思いますが、そういうことは可能ですか。

■事務局：本日いただいた意見を取り入れながら、「地域の繋がり」、「まっすぐ向き合う」などを組み合わせ、新たなものに作り変えて、次回、ご報告させていただきたいと思います。

■議長（委員長）：次回、10 月の会議に案１と案３との合体したものを提案していただき、また皆さんにご意見をいただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

■事務局：24 ページ「各主体の姿」についてですが、こちらについても、先程いただいたご意見を参考に、事務局で整理し、纏めるということでよろしいでしょうか。

■議長（委員長）：案について皆さんから理由を言っていただいたので、その中に当てはまる言葉をこの中から選んで、多いところは削除してもらい、次回 10 月の会議にもう一度出してもらうということですが、皆さんよろしいですか。

〔　一同承認　〕

■議長（委員長）：ありがとうございます。それでは皆さんに議事の承認を求めたいと思いますが、骨子案としてこれで進めていってよろしいでしょうか。よろしかったら挙手をお願いします。

〔　一同承認　〕

■議長（委員長）：ありがとうございます。全員の賛成で、議事は承認されました。

５．その他

子育て支援事業について

■議長（委員長）：続いて、子育て支援事業について事務局から説明をお願いします。

〔　事務局から資料に基づき説明　〕

■議長（委員長）：ただいまの説明について、何かご意見はありませんか。

私はみさとこども園の近くにいるので特によく交流があるのですが、招待されていくと、幼児コースの子どもたちは２時になるとお迎えが来てしまうので、後ろ髪を引かれるように帰っていきます。もう少し時間があれば、ということをいつも思うのですけれども、親御さんたちからもそういったご意見をいただいているようですし、事務局より前向きな考えを言ってくださったのでありがたいなと思っています。この子育て支援事業の施策について、この通りに進めていってよろしいでしょうか。

■委員：先ほども言ったように、子どもを増やす施策について、この子ども・子育て会議も含めて一緒になって考えて、横にもっと繋がっていかなければいけないと思います。来年度は、ここのメンバーだけではなく、移住・定住、人口を増やす、そういうところの方たちも一緒になって考えてもらうような形を取れたらいいのではないかと思います。もっと横の課と繋がって、恵那市の全体の人口が増えていくように、子どもが増えていくように、子どもを育てる世代が増えていけるようなことをやらないと、せっかくいい子育て支援施策があってももったいないことになる気がします。昨年生まれた子どもの数を聞いて愕然としております。なんとか歯止めがかかるように、子どもを産んでくださる世代を増やすのもこの子育て支援のひとつではないかなと感じるので、ぜひご検討いただけたらなと思います。

■議長（委員長）：前の総合計画では、出生率、出生の人数が１年に 450 人で計画が立てられていましたけれど、去年は出生 150 人ぐらいでした。全く違ってしまっているので、中学校はいいですが小学校は複式学級になってしまうという話もいろいろなところで聞くところです。

３月の会議だったか、委員が、結婚してもらわないと子どもができないという話をここでされたことがありました。婚活パーティーをやっているような地域振興課や、いろいろな関わりのある課と一緒になって、ここで会議をもっていくといいのかとも思いますので、ぜひ事務局でもそういった前向きな考え方を持っていただけたらと思います。

■委員：施策の１番について、要は里帰り出産をしていただく人を増やしたいという思いですか。里帰り出産をされる方に対しての補助という認識ですが、例えばどの辺りの医療機関、産科のある病院を想定しているのでしょうか。例えば、恵那市に母のいる実家があって戻ってきたが、出産は春日井あたりの病院にしか行けないという人は対象になると思いますが、土岐と瑞浪の間に産科のある病院ができると聞いていて、恵那市から土岐市だったら 60 分以上にはならないので、どのような想定をしていらっしゃるのかをお聞きしたいです。できれば恵那市外、例え 10 分、20 分でもいいから恵那市外に行って出産をするのならこういう補助を出しますということにし

ていただきたいのと、出産するだけではないので、私の妻もそうだったのですが妊娠してからなかなか安定せず、少し病気もあり、婦人科にかかってやっと妊娠したのに、なかなか病院から出られない状態が続いたりしたことがあり、そういう不安にどう応えるのか教えて下さい。

■事務局：おおむね 60 分ということですので、恵那市内ですと県立多治見病院とか多治見市にある産科、あとは明智町ですと豊田の方へ行かれるということもお聞きしましたので、そういった病院を想定しております。

それから里帰りといいますのは、恵那市の住民票のある方がどこかご実家、例えば里帰り出産をされた時に、そのご実家から１時間以上概ねかかる距離にある産科で生まれた時になりますので、恵那市外の方が恵那市に来て産むというのは該当にならないです。

■委員：瑞浪市に住んでいる人が恵那市に実家があるから戻ってきて、というのは対象にならないのですか。

■事務局：はい、恵那市に住んでいらっしゃる方が対象になります。

■議長（委員長）：恵那市に住民票がある人ということです。

■委員：現在、どのぐらいの方がいらっしゃるのですか。

■事務局：恵那市の方で、例えば県病院を使われる方ですと、去年で 20 人ぐらいいらっしゃいました。

■委員：２番の新規事業「親子関係形成支援事業」ですが、対象はどういった方を選んでいかれるのでしょうか。また、その講義やグループワーク、ロールプレイ等などの手法は、どういった方が保護者に支援していくのか、具体的なものがどこまで出ているのかを伺いたいです。

■事務局：対象を想定しているのは、例えば初めてのお子さんでお母さん自身が子育てを不安に思っていらっしゃる方や、少し心配なことがあるお子さんがいらっしゃるご家庭などを対象にしていきたいと思っています。また、講義などの対応については、ベビープログラムという講義を受け資格を取られた方がいらっしゃるということでしたので、その方々を講師としてお迎えしたいと思っています。

■委員：私たちの事業でもペアレントトレーニングや親支援には非常に力を入れているところなので、そういったところも市の事業としてしっかり形を作っていただくのが非常に重要かと思いました。

■議長（委員長）：２番の年齢は何歳ぐらいまでですか。

■事務局：今、０歳から３歳ぐらいまでのお子さんのいるご家庭、親御さんになります。

■委員：私どもの所には、０歳、１歳から預けている保護者もいて、６時まで仕事をされて園に迎えに来ます。精神的な面で不安定な保護者もいて、困っていることもきっとあると思うので、この事業が定期検査や子どもの乳幼児教室など参加しやすいところでやっていただけるといいのでは思いました。

保育園の子どもでもそうですが、園の重要性をとても感じています。園と市の子育て支援との繋がりもとても大事だと思っています。不安だけれどそれを出せない保護者もたくさんいて、園でその状況を知ろうと思ってもなかなか知れなかったり、家庭の中に踏み込めない部分もたくさんあり、その影響はお子さんに行っています。お母さんはお仕事されているので６時から次の日の朝までしかお子さんを見ていないこともあり、その中でもすごく苦しんでいたり、園自体もそのお母さんにどう援助していったらいいかととても悩んでいる部分があります。こうやって乳幼

児、親子関係形成の支援事業の中で、園も含めてやっていけることがあると良いと思いました。
■議長（委員長）：それについてアドバイスはありますか。
■委員：ベビープログラムをあまり理解していないのですが、実際に支援しているところに繋がっていくことは必要だと思います。これは個別でやるのですか、他との連携はどうですか。このプログラムに参加してください、といった形ではなく、園と実施するのですか。
■事務局：ご要望や、こういった方が、という紹介があれば対応します。
■委員：もう少し詳しくないと、ベビープログラム自体がどのような効果を持つものかわからないです。
■議長（委員長）：専門的なことなので、少し踏み込んだ考え方を持っていただきたいなと思います。
それでは、４つの子育て支援事業施策について進めさせていただくことでよろしいでしょうか。

〔　一同承認　〕

■議長（委員長）：ありがとうございます。それでは本日のすべての報告と議事を終えることができましたので、進行を事務局にお返しします。

６．閉会

■事務局：委員長、スムーズな進行をありがとうございました。また委員の皆さんにもさまざまなご意見、ご指導いただきましてありがとうございました。今後のこの計画に意見も含め、前向きに取り入れていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。
　それでは最後に、副委員長より閉会のあいさつをいただきたいと思います。
■副委員長：本日は暑い中、皆さんお忙しい中お出かけくださってありがとうございました。初めてでしたけれども活発なご意見をいただけまして私も勉強になりました。私は三郷なのですが、三郷も人口減少で、カップリングをしてもなかなかカップルができず、子どもが増える状態にならないというのが大きな課題になっています。先ほど委員も言われたように、一緒になって考えていけると良いと思いました。今日は本当にありがとうございました。
■事務局：以上をもちまして、第１回恵那市子ども・子育て会議を終了とさせていただきます。

〔　閉　　会　〕